

トビイロウンカの初確認

海津市海津町に設置した予察灯において、8月9日にトビイロウンカ（図1）の雄成虫1頭が誘殺されました。

本種は、大陸から気流に乗って移動してくるイネ害虫で、もともとは熱帯地域に生息しており、本州では越冬できませんが、飛来後には短期間で急激に増殖するため、吸汁による被害を引き起こします。

8月10日時点において本種に対する警報及び注意報の発表は全国的にありませんが、近隣県（愛知県、三重県、静岡県、滋賀県、奈良県）では6月上旬以降に予察灯や払い落とし調査において本種が確認されています。

本種は、出穂期以降に多発するとイネ株が急激に萎凋して枯れるため「坪枯れ」と呼ばれる被害となります（図2）。9月以降に収穫を迎える品種では、被害が発生する可能性があります。ほ場の見回りを徹底するとともに、特に水面近くのイネの株元を重点的に観察してください。

また、防除を実施する際は、使用時期（収穫前日数）等の農薬使用基準を遵守して、薬液が株元にかかるように散布してください。



図1 トビイロウンカ老齢幼虫（左）
と長翅型成虫（右）



図2 令和2年に発生した坪枯れ被害

- ・農薬の使用にあたっては、最新の登録内容を確認し、適正に使用してください。
農薬登録情報提供システム
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- ・当所のホームページに発生予察情報、病害虫調査データなどを掲載していますのでご活用ください。
岐阜県病害虫防除所
<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>